



VOICE

読者のページ

2023年9月号(51巻9号)へ寄せられた
読者の皆様からのご意見・ご感想を紹介します。

特集

てんかん A to Z

- 神経生理学的検査担当以外だと、てんかんは遠い存在ですが、総論や脳磁図検査、抗発作薬の基礎知識がためになりました。てんかんに携わらない医療従事者ももつべき知識だと思います。 **あつぎの老人(東京都)**
- てんかんに関する検査全般と脳波検査の波形の判読を学べました。てんかんという脳波やCTをイメージしがちですが、血液検査からも診断できると知り、勉強になりました。 **ビューティー(新潟県)**
- てんかンを疑う患者の脳波検査には、発作に対する恐怖心から、強い苦手意識がありました。発作時対応の詳しい記述が大変参考になりました。 **HH(兵庫県)**

基礎講座

腫瘍特異的マーカーと 腫瘍特異的陰性マーカー

- ルーチンで免疫染色担当になりました。今まさに勉強中だったので、記事を参考にします。 **RN(静岡県)**
- 生化学免疫検査の腫瘍マーカーと免疫染色で使用する腫瘍マーカーで混乱している学生や新人技師をよく見かけます。ぜひ、記事の内容を紹介したいと思います。 **雫(山形県)**
- 病理業務に欠かせない免疫染色は、多様な抗体について陽性部位などの基本知識を習得する必要があります。まれにしか使わないもの、自施設ではオーダーされないものを学べて、とても参考になりました。今後のシリーズ展開が楽しみです。 **MT(秋田県)**

FOCUS

難聴と補聴器装用

- 高齢化が進む日本で補聴器の普及率が15%と格段に低い一方で、多くの先進国では圧倒的に普及していることに驚きました。補聴器がもう少し身近になるように、公的な補助が増え、使いやすさが改善されればいいと思います。 **MT(秋田県)**
- 聴力検査もルーチンの一部ですが、補聴器との関連も含めて詳しくわかりやすく書かれている文献が少なかったため、今回の記事はとても勉強になりました。耳鼻科関係の他の内容もぜひ読んでみたいです。 **JS(神奈川県)**

技術講座

液状検体における 細胞診標本作製のためのテクニック

- 脾液、胆汁で粘液が多い検体の細胞回収率がいま一つだったので、記事で紹介されていた方法を試してみようと思います。また、溶血剤使用後の遠心で有核細胞が底部に溜まることをはじめて知りました。スタッフに周知します。 **MT(京都府)**
- 病理担当者以外にも標本作製することがあるので、記事を活用してもらいます。欲をいえば、セルブロック作製法にもふれてほしかったです。施設によって手法が異なるため、どれが自院にとって最適なのかなどを知りたいと思いました。 **コウベノサウナー(兵庫県)**

ご意見・ご感想は巻末の「ホットラインカード」にてお寄せください。
ご投稿をお待ちしています！